

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490100464		
法人名	医療法人 光煌会		
事業所名	フレンズハウス桑名		
所在地	三重県桑名市多度町中須59番地		
自己評価作成日	令和6年12月17日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/24/index.php?action_houkoku_detail_2024_022_kihon=true&SelectTab=1
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 7年 1月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「笑顔の絶えない安心できる毎日」を理念に掲げ、利用者・利用者の家族の思いを受け取り、できる限り望みがかなって自由に暮らしていただけるよう個別対応を心掛けている。また主治医・看護師と連携を取り、家族に連絡をして安心していただける体制を作っている。面会や外出は自由にさせていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は桑名市北東部を南北に走る国道258号線から程近く、周囲には住宅が立ち並び静かな田園地帯に立地している。2024年10月1日より旧経営法人傘下にあった北勢地域3カ所のグループホームの経営法人が変更となり、事業所名が「グループホーム・フレンズハウス桑名」と改名された。本年1月1日付で新管理者が着任となり、旧事業所の介護支援専門員はそのまま引き継がれ、共に今後の現場での全ての取り組みの話し合いが進められている。管理者と介護支援専門員は、家族面会時の細やかな話や対応も進め、介護を担う職員とも一体となって、滞りなく推進出来るよう取り組みながら、運営が開始されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔の絶えない安心できる毎日」を理念に掲げ、職員の目の届く場所に掲示している。	理念の「笑顔・安心」は、人を迎える事では当たり前のように必要な事だと職員は感じ、利用者には態度で示して実践している。利用者テレビのラジオ体操を行い、終わりに頭を下げて一礼する外国人職員の姿に「笑顔・安心」の微笑ましい姿が伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族が施設周辺を散歩したり外出に連れ出してくださるが、コロナ感染症発症後は外出やサロンは行っていない。	自治会への加入はあるが、現在地域での活動や地区集会等が確立されていないのが実情である。良い機会があれば、ボランティア訪問等も受け入れ地元地域との交流を願っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長・民生委員・ボランティアの方に来ていただき、施設内の状況を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の利用状況・行事・食事のメニュー・写真などを見ていただき、意見をいただいている。	昨年10月1日経営者変更後より第1回推進会議が11月19日に実施された。今後は奇数月の第3火曜日設定により1月も予定している。参加者の充実と議題内容への取り組みを進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、利用者の事例などを伝えている。	行政窓口には、管理者が書類の届出や空室連絡に出向き、情報交換や共有で連携を図っている。推進会議の案内にも直接窓口へ連絡に行き、協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで出入りは自由に行える。センサーが付いているので玄関に誰かがいれば分かるようになっている。運営推進会議と同時に身体拘束適正化委員会を行い、それに向けたカンファレンスを行っている。	日中は玄関の施錠はされず、優しいチャイムで知らせている。推進会議で身体拘束についての意見や情報交換を行い、具体的な行為や対処法等の理解や学びの場となっている。	身体拘束適正化委員会は推進会議での開催と、研修会の実施もされているので、加えて委員会議事録、研修会記録に参加者確認を明記された記録作成を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修で年2回高齢者虐待について学んでいる。時にはアンケートを行い、振り返りをしていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で地域包括支援センターの方から成年後見制度について話していただく。必要に応じて案内できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に説明をし理解いただいた後で、入居が決まって契約をする前に重要事項を説明させていただく。納得していただいた後で契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族に日頃の様子や往診時の報告をしている。何かあれば家族に電話をかけて様子を伝えている。	現在、マスクと手指消毒にて家族面会は可能で居室への入室も規制していない。家族も気軽に快く、希望や困り事等に応じて貰う機会を持っている。携帯電話を使用の利用者と家族は、トラブル発生時には家族が対応するという話し合いの元で自由に使用中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで意見を出し合い、意見・提案は管理者会議で相談している。	月1回スタッフミーティングで職員の意見や提案は、管理者から上司に伝達し対応している。ボーナス月の年2回人事査定では、個々の能力や向上心を評価し、職員の研修や支援制度にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事査定があり職員個々の努力を考慮した昇給が実施されていた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間の研修計画を作成し、それに沿って研修を行っている。職員全員が介護福祉士を取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やセミナーは希望すれば誰でも参加できる。他施設から手伝いに来ていただき、交流を深めることができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい入居者には管理者または職員が常時支援して、慣れるまでは1人にしないよう努めている。状況を事細かに記載し、職員全員が把握できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後3日～1週間は利用者の様子を家族へ電話で報告し、要望等に耳を傾け、いつでも電話連絡できる環境にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の困りごとと心配なことを理解し、施設でできることとできないことをお伝えし、家族の協力を得ながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の隣りに座って会話をしたり、一緒に作品作りをする、一緒に洗濯物を畳むなど共に行動して関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の困りごとは職員のみで解決せず、家族にも相談している。家族の意見を尊重している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人から年賀状やハガキが届いたら返事を送る手伝い（投函）をしている。お孫さんの結婚式の日にはタブレットで会話できるようお手伝いをしている。	地域の神事や祭りの懐かしい写真が掲示され、利用者と馴染みの話題が広がっている。訪問理容を待つ利用者と、家族と理髪外出に拘る利用者にも、馴染みの思いを大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行い、職員も輪に入ってできないところは協力し、聞こえない時は大きい声で伝えるなどして関わり合いに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の施設の方に元気に過ごされてるか状況を聞いている。相談があればできる限りの支援は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望はできる限り沿えるよう、利用者と一緒に床屋へ行ったり、食べたい物があればスーパーに買いに行ったりしている。	「今夜はカップラーメン食べたい」と希望がある時は職員が買いに行き思いを叶えている。利用者の日々の行動や表情を丁寧に汲み取って傾聴し、本人本位の視点で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの日課にとらわれず、利用者の要望に合わせて支援している。家族が作ったおかずを食事時に出すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの日課の声掛けはするが参加は自由としている。利用者の要望に合わせて支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の言葉を傾聴し、家族の要望を聞いてニーズを引き出し、介護計画を作成している。	長期1年、短期6ヶ月目標とし、毎月主治医からの情報と日々の支援記録をモニタリングで評価し、職員の意見も反映された計画書である。家族の要望や利用者の変化が見られなくても、新たな視線で計画作成を進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を皆で共有し利用者の体調の変化に気づき、変化に沿った支援をしている。スタッフミーティングで意見を出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の内容・形態などその時に必要な物に変更している。看護師とも相談しストッキングを履く、夏でも薄手の長袖の服を着ていただくなど利用者に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者との毎日の会話の中で興味のある事を引き出し、楽しく笑顔で暮らせるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は月1回の往診以外にも、体調の悪い利用者の往診に来てくれる。救急搬送の際、利用者家族が望む病院に搬送できるよう連携を取ってくれる。	家族対応のかかりつけ医が1名で、それ以外は事業所協力医の訪問診療である。非常勤看護師が非番で夜間や緊急時でも協力医と電話連絡により、職員に指示を伝え、適切な支援体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に連絡が取れるようにしている。職員は看護師に相談でき、看護師から主治医に連絡し指示を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は看護サマリー・介護サマリーを提供する。薬を病院へ持っていく際に病状を聞くことができた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期、ホームでの医療のできることとできないことを理解していただき、看取りに関しての同意をいただく。利用者の体調が悪くなり家族に説明するときにも再度確認している。	過去にも看取り経験があり、今年度も看取り支援は継続の方針である。看取りや急変時に備えての研修は年間計画に取り入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応の研修をしている。緊急時の情報提供票を作りすぐ対応できるよう準備をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。夜間は職員が1人であり避難は難しいため状況を早めに把握して日中の明るい時間帯に避難できるよう考えている。	年2回の防災避難訓練を実施し、本年春にも予定している。肘江川堤防に近い立地の為、自主防衛だけでなく地域との防災協力体制も検討している。備蓄品再確認と今必要な物品や未確認事項にも取り組んでいる途上である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄・更衣時はドアを閉め、プライバシーを損ねないよう声掛けにも注意している。訪室時はノックと声掛けを心掛けている。	外国人職員と共に、利用者の安全面を重視した支援対応への声掛けや配慮に取り組んでいる。入浴、排泄、更衣には特に配慮しながら寄り添う支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方はジェスチャーや筆談でコミュニケーションを取るなどし、顔の表情を見ながらなぜこのような行動をするのか利用者の思いを読み取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調を優先し利用者の意向を確認しながら入浴や食事などの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服をお勧めし、その日の気温に合わせて選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決まっているが、食べたいと言われる食事をできるだけ提供している。	ご飯と味噌汁は職員が作り、業者から届いた料理を提供している。誕生日等イベントでは、ロールケーキをデコレーションしたり、食べる楽しみや気分を盛り上げたり、利用者の希望に添った食の楽しみを提供する工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて主食の量を変えたりしている。1日1200mlを目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、自分で歯磨きができない方と義歯が洗えない方は介助させていただく。義歯は毎日ポリドントで消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を記録から把握して早めにトイレ誘導し、失禁を減らしている。	排泄記録で把握した中でも、無理のない様に本人の習慣や訴えに添った対応を方針として支援している。車椅子や衣類汚れ等が軽減されるようになり、自立に向けた取り組みを進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医から下剤を処方してもらっている。時には排便・浣腸を看護師にしている。毎朝ヨーグルトを提供し自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人30分かけてゆっくりと入浴していただく。便失禁された時、入浴の予定がなくても入っていただくときもある。入浴の好きな利用者は毎日入られる時期もあった。	1人が週2回、午後からの入浴である。ゆったりと広さがあり、清潔感ある浴室である。利用者自身のリズムと心情を配慮し、急がずゆっくりと楽しく会話をしながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息は自由にいただいている。なるべく夜間に眠れるよう昼寝以外はフロアで過ごしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、内服薬の変更など情報を共有している。薬が変更になった場合その後に変化がないか様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を行い、レクで飾り付けなどを一緒に作っていただく。土用丑の日や敬老の日などは特別メニューに変更したり、誕生日会でケーキを用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力していただき、外出時に外食をしていただいたり、面会時に屋外で気分転換していただいている。職員は施設周辺を散歩している。	家族の協力が得られる利用者は、外出や外食に行かれ、又家族と病院受診時は気分転換に外食や買い物の機会がある。お天気の良い日は、事業所周辺に職員と散歩に出て気分転換を図っている。春先には社用車で花見ドライブ計画も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金を持ってきている方はみえない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってみえる利用者がある。手紙用のノートとペンを1人の利用者にお渡しし、家族に手紙を書かれる。手紙を出せなくても娘様にお電話をして手紙を読み上げた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝清掃して清潔な環境を作っている。喚起をし1年中快適に暮らせるよう空調を付けている。癒しになるよう観葉植物や熱帯魚を育て観賞している。	共有空間はゆったりと広く、熱帯魚や観葉植物が間近で見られて、利用者や面会家族の癒しになっている。空気清浄機が2箇所に設置され、職員による清掃も行き届き、清潔が保たれている。リビングの端々にソファが置かれて居心地が良い環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はそれぞれ自分の居場所があり慣れ親しんでいる。利用者同士の問題が起きた場合は席を移動する時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族の意見を聞きながら、テレビ・毛布・枕・アルバムや好きだった歌手のCDなど自由に持ってきていただいている。	居室内では事故が起きない様に、安全第一で家具や物品の配置を配慮している。夕飯後には居室で、テレビを見て過ごされる事も多くあり、個々の思いを尊重して見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは一目で分かるように扉に大きく表示してある。手すりがあり広いスペースで安全に通れるようになっている。		